

令和7年6月10日(火)

土地改良課 農業基盤整備グループ

担当： 井下・喜田(内線3848)

ダイヤルイン 087-832-3438

満濃池にて「令和7年度 初閘抜き奉告祭」が斎行されます。

標記につきまして、別添のとおり満濃池土地改良区から情報提供がありましたので、お知らせします。

記

1. 概要

満濃池は大宝年間(701~704)に築造されたと伝えられるため池で、弘仁12年(821)には弘法大師空海が改修したことで有名です。

その後、何回も改修を重ね、昭和34年には堤防を6m嵩上げした結果、貯水量が一挙に倍増して現在の1,540万トンとなり、農業用ため池としては国内で最大級の規模を誇っています。

このゆる抜きにより、最大毎秒5トンの水が丸亀平野の3,000haの水田を潤し、一斉に田植えが始まります。中讃地域の初夏の風物詩となっています。

2. 主催者

満濃池土地改良区
理事長 黒木 保

3. 日時

令和7年6月15日(日)
11:00 神野神社にて神事
12:00 ゆる抜き

4. 場所

仲多度郡まんのう町神野 満濃池

5. 出席予定者(式典)

池田県知事ほか約70人

6. 問い合わせ先

満濃池土地改区
電話：0877-75-3157

和年号(年)	西暦(年)	主な出来事
大宝年間	701~704	讃岐の国守道守朝臣が創築。
弘仁 9	818	洪水により堤防が決壊。
" 12	821	朝廷の築池使、路ノ真人浜継が派遣され復旧に着手したが容易に成らず、あらためて築池別当として空海(弘法大師)の派遣を要請し、この年の7月わずか2ヶ月余で再築。
仁寿 1	851	洪水により堤防が決壊。
" 2~3	852~853	讃岐国守、弘宗王が復旧。
元暦 1	1184	5月1日、洪水により堤防が決壊。 この後、鎌倉、戦国時代の争乱期を含めた約450年間は復旧されないまま荒廃にまかせられ、池の中は「池内村」となる。
寛永5~8	1628~1631	豊臣秀吉の天下統一後大平の世となり、徳川家光の時、讃岐領主生駒家4代高俊が家臣の西嶋八兵衛に命じ再築。 水掛かりは3郡44カ村35,814石に及び当時の讃岐総石高の約1/6を占めた。
嘉永2~6	1849~1853	当時、樋管(ゆる)は木製であったため、寛永8年の再築後も底樋の伏替が6回、堅樋又は櫓の仕替は12回に及んだが、この時底樋を木製から石造りとする。
安政 1	1854	7月9日、大地震により石造りの底樋がゆるみ堤防が決壊。 幕末の混乱期で、復旧が遅れたため榎井村の庄屋、長谷川喜平治は私財を投じて東奔西走したが志半ばで死去。
明治2~3	1869~1870	高松藩の松崎汝右衛門、倉敷県の参事島田泰雄らの支援のもと、榎井村の長谷川佐太郎、金蔵寺の和泉虎太郎らの尽力により復旧。この時堤防西隅の大岩に石穴をうがち底樋とする。 (貯水量5,846千 m^3 、役夫144,900人、工事費4,073円)
" 31	1898	堅樋、櫓の改修(工事費10,300円)
" 38~39	1905~1906	第1次嵩上(0.87m)及び余水吐改修。 (貯水量6,678千 m^3 、工事費16,761円)
大正 3	1914	配水塔新設(工事費18,900円)
昭和2~5	1927~1930	第2次嵩上工事(1.5m)及び財田川からの承水隧道新設工事(400m)等を県営事業で実施(貯水量7,800千 m^3 、工事費428,700円)
" 15~34	1940~1959	昭和14年の大干ばつを契機に第3次の嵩上工事(6.0m)及び土器川より取水するための天川導水路工事(4,668m)を県営事業として実施し、貯水量は15,400千 m^3 と倍増。(工事費543,327千円)
" 28~44	1953~1969	満濃池用水の有効利用のため、別途県営金倉川沿岸用水改良事業により、幹線水路の整備を行う。(工事費639,122千円)